

2021年度研究成果公開促進費（学術講演会等） 成果報告書

【報告者所属・氏名】

文学部美学美術史学科椎原伸博

【タイトル】

現代アートにおける創造的行為としての「食」研究報告に基づく公開討論会①11/17

現代アートにおける創造的行為としての「食」研究報告に基づく公開討論会②12/18

【講演者所属・氏名】

現代アートにおける創造的行為としての「食」研究報告に基づく公開討論会①11/17

実践女子大学・椎原伸博 東京芸術大学・林卓行

奈良県立大学・西尾美也 東京芸術大学・小沢剛 千葉大学・神野真吾

現代アートにおける創造的行為としての「食」研究報告に基づく公開討論会②12/18

実践女子大学・椎原伸博 新潟大学・丹治嘉彦 専修大学・島津京

大阪市立大学・吉田隆之 美術評論家・栗田大庫庸

【開催日時・場所・来場者数】

日時：2021年11月27日（土） 16時00分 ～19時30分

場所：ハイブリッド開催(zoom 渋谷702教室)

来場者数：約40名(Googleフォーム申込み者72名)

日時：2021年12月18日（土） 16時00分 ～19時30分

場所：ハイブリッド開催(zoom 渋谷702教室)

来場者数：約35名(Googleフォーム申込み者48名)

【学術的な成果】

今回は、科研費の研究成果公開と、ゲスト講師を招いてのディスカッションの二部構成で行った。公開討論会①では、国際的に活躍している現代美術作家2名を招聘し、美学や芸術学の視点からだけでなく、制作の現場からの視点と織り交ぜながら意見交換が出来た。公開討論会②では、ロンドンで研修中の文化政策学のゲスト講師を招き、芸術の社会包摂機能の視点から、日本と欧州の比較をしつつ意見交換が出来た。ゲスト講師とのディスカッションは、すべて文字起こしを行い、研究成果報告書に掲載した。そもそも、現代アートと食の問題は、学術的な研究が進んでいない領域であり、そこに現代美術作家や文化政策研究者との意見交換をすることで、新しい知見を獲得出来たことが学術的な成果といえる。

一方、科研メンバーによる研究成果の報告は、4年間の研究を総括するものであり、それらも研究論文として研究成果報告書に掲載した。さらに、科研における研究会のゲスト講師の発表も追加資料として、研究成果報告書に掲載し、総文字数40万字に及ぶ報告書が完成した。報告書は主要な研究団体、研究者に頒布し、学術的な交流を行った。

【広報面での成果】

二回の研究会は、大学HPやfacebookやtwitter等のSNSで積極的に発信した。申請書には、zoomでの閲覧者を100名としていたが、その数からすると目標を達成することは出来なかった。しかし、美学会のzoom研究会の視聴者でも100名を集客出来ることは稀で、50名程度の視聴に止まっていることを考えれば、討論会①はGoogleフォームの申込み者

が討論会①が72名、討論会②で48名あり、一定の告知効果はあったと思われる。

【今後の課題・展開】

前述したように、総文字数40万字に及ぶ研究成果報告書にまとめた。また、本研究は、2020年も公開促進費の助成により公開シンポジウムを行い、それを報告書にまとめている。それらの報告書は、既に研究機関や研究者に送付した。科研費の研究は、本年度で終了するため、本研究は公開促進費による研究成果報告書の作成によって完結した。

今後は、外部研究者から報告書に対するリアクションがあれば、学術的な交流を図っていく。また、本研究のメンバーを中心として、新たに科研費による研究体制を築き、申請したが、残念ながら研究は採択されなかった。次年度には再度申請を行う予定であるが、その際には本研究の成果を発展させることを目標としたい。